

## NPO法人尼崎障害者センター第2回法人総会 議事録(抜粋)

日時：2009年11月14日 2時-4時15分 身体障害者福祉会館 (稲葉荘)

第5号議案 2011年4月に「地域活動支援センターパソコン工房」を設立運営する提案について審議別紙(5)を代表理事が提案し審議した。スタッフ希望者のAさんがオブザーバーとして出席し、別紙(9)について述べたあと、出席会員が文章を代読しました。

一> 意見としては

- ・この1年の間に制度が大きく変わるかもしれない。そのことが考えられているかどうか。
- ・就労の場所ができるのは賛成だ。
- ・資金が準備できるかが心配だ。
- ・こういう場を作ることはいいことだ。賛成です。
- ・就労の場を作ることはいいことだが、私自身は目立った手伝いができる余裕がない。
- ・昨日NHKでパソコンで働く障害者のことが出ていた。知的障害者もクロネコヤマトでパソコンを使った事務をしている人がいる。このような場所ができるのはとてもいいことだと思う。
- ・最重度の子どもは就労は考えられないが、企業への就職の前のかたちとしてあっていいと思います。応援します。
- ・私も同じような流れでした。企業では就職できなかったです。うれしいことです。

などが出て賛成の意見が多く出ました。

今の政権では支援法廃止となっているので提案されている「地域活動支援センター」の制度が申請の時(1年半後)わからないが、今よりよくなることはあっても悪くなることはないだろうから、そのときの制度で申請していけばいいのではないか。

資金繰りについては別紙(5)で検討された案でとりあえず進んでみたらどうか。

曲さんから、聞き取りにくい時は文字盤を示しながら、今、玉津でワードやエクセルの講習を受けていてカリキュラムを作りたいと準備していることなどが話されました。

一> 代表理事から「賛成の意見が多いようですし、『法人として、2011年4月に地域活動支援センターパソコン工房を設立運営するために準備を進める。』障害福祉課への申請期限2010年9月末に、申請するかどうかの最終判断を会員にはかる。途中皆さんへ報告を入れながら、Aさん・Bさん・Cさんの3人が準備を進める。」という提案がなされ、全員一致で承認されました。

<別紙5>

第5号議案 2011年4月に「地域活動支援センターパソコン工房」を設立・運営する提案

(1) 経過

1/23の総会で決定された事業計画として定款にあります事業「(5) 小規模作業所・地域活動支援センター・障害福祉サービス事業所に係る運営支援事業」の具体的目標が次のように示されていました。

- ・10人未満で発足せざるをえない小規模作業所の設立を支援し、1年後の法内化を支援します。
- ・法人化できない小規模作業所へ、法内化の支援を行ないます。十分な話し合いのもと、当法人の運営として法内化を目指す支援も考えます。
- ・小規模作業所からの地活センター移行を支援します。
- ・活動できるメンバーがそろえば、たとえば就労を目指すパソコン研修を行う常時開設の「地域活動支援センターパソコン工房」などを経営します。
- ・「尼崎障害者センター基金」から専門家へ報酬をお渡しし、作業所・地活センター・障害福祉サービス事業所などの税務会計を直接支援します。
- ・補助金制度や補助金団体の情報を伝え、申請を支援します。

この「地域活動支援センターパソコン工房」については、ここ半年ほどNPO法人障害者情報ネット

ワーク尼崎で一緒に勉強してホームページ作成の営業などもやってきましたAさんが設立を熱心に希望されています。重度の車イス障害者で「社会福祉士・福祉住環境コーディネータ・福祉用具相談員・ピアカウンセラー」などの資格取得の努力家です。西宮のプールで練習され、国体出場者です。支援事務をやっておられるBさんも同じチームで動いていますが、いっしょに働くことを願っておられます。就労支援でもあり、今回正式に提案いたします。

## (2) 内容

名称：地域活動支援センターパソコン工房

場所：身障会館から市役所までの間の適当な物件

活動内容：就労や社会活動に役立つ、常設したパソコンを使っての集中訓練。

阪神間の障害者にさまざまなコースを用意してのパソコン集中訓練（有料）

スタッフ・所員：Aさん、Bさん、Cさん（NPO法人尼崎障害者センターからの出向、無給）

所員及び受講生を指導できる応援スタッフ（講師交通費支払い）

7名以上のセンター所員（常時通所して、センター員として登録できる方）

募集する集中講座への受講生（3障害+難病）

コンピュータ機器：協力連携していただけるNPO法人障害者情報ネットワーク尼崎所有の20台のうち10台を保管・使用。

## (3) 目的

3-1 若い世代の障害者の就労の場をつくる。15万円15ヶ月の常勤雇用2名を実現したい。パソコン力を持つ障害者が工房で開かれる講座の講師として報酬を得ることができます。

3-2 パソコンの集中訓練でかなりのコンピュータ力がつけられるので、困難な企業就労への一助とできます。また自宅就労や周りの人へのパソコン援助で社会へのかかわりが進みます。

3-3 定款でめざす支援事業を行う拠点や人員が確保できます。「地域活動支援センターパソコン工房」と「NPO法人尼崎障害者センター」とで住み分けることができます。

3-4 その設立過程を記録整理することで他の作業所・これからの作業所への支援のノウハウが蓄えられることです。法内化ができそうもなく悩んでいるところへのアドバイスが実効的にできます。

## (4) 懸念される点

まだ十分でない「NPO法人尼崎障害者センター」の取り組み体制で「地域活動支援センター」を運営していけるだろうかという不安です。これについては、1年半後の2011年4月開所を目指し、それまで準備を積み重ねることで、不安が解消されるよう動きます。

## (5) 準備

5-1 スタッフ希望のお二人には、あと1年半、税務・会計簿記・雇用事務を学習していただき、先輩の作業所・地域活動支援センターに差し支えないところで、年間収支などの実務、申請書の書き方、尼崎市への提出書類の書き方などを教わります。

5-2 事務所探し、移転準備などもスケジュールをたてて進めてもらいます。

5-3 NPO法人尼崎障害者センターからは無給スタッフを出向させ、常にNPO法人尼崎障害者センターへ報告をしていながら、パソコン工房は独立採算として運営していきます。

5-4 敷金・家賃・建物整備・室内調度支払いなど尼崎市からの補助金が出るまでの3ヶ月の資金は、スタッフ3人及び市民・企業からの寄付金で準備します。

※ 私たちNPO法人尼崎障害者センターの会員23名は、作業所や作業所運営のNPO法人の役員や責任者をしながら個人有志としてこの法人を設立しましたが、いずれの方も、このような長年のノウハウを持っておられます。そのお知恵を「障害者がスタッフとなって、就労を目指す障害者（3障害+難病）を支援する」地域生活支援センターを創ることにお貸し願えませんか。

<これまでお聞きした小規模作業所・地活センターの運営を参考にした見通し>

### 開所までに必要な費用

品目	(万円)
トイレ拡張・改修	80
入口スロープなど工事費	50
敷金	20

準備金	(万円)
新設補助費(尼崎市)	200
補助団体より補助金獲得	100
合計	300

礼金	10
机など備品(中古)	50
コンピュータ1台	10
プリンタコピー機	5
電話など機器	5
照明など設備	10
エアコン	20
駐車場	0
その他	40
合計	300

地域活動支援センターパソコン工房の年間運営費用試算

通所生 10 人

<収入>	単価	金額
管理費		5,313,600
事業費	8,330	999,600
家賃借上げ費	50,000	600,000
機能強化事業加算		1,500,000
収入合計		8,413,200
<支出>		
給料2人	150,000	3,600,000
職員手当		660,000
非常勤職員報酬		0
社会保険料	40%	1,440,000
需用費		1,000,000
家賃	100,000	1,200,000
その他		513,200
支出合計		8,413,200

3か月+通勤5000円

水道光熱費など

開設時3ヶ月の無収入をどうぐり抜けるか

給料2人	150,000	900,000
社会保険料	40%	360,000
需用費		250,000
家賃	100,000	300,000
その他		100,000
合計		1,910,000

3か月分運営費調達見込み

スタッフAさん給料寄付	450,000
スタッフBさん給料寄付	450,000
長期借入金(スタッフC)	500,000
寄付を募る	510,000
合計	1,910,000

① 私の生き立ち

私は、幼いころから負けず嫌いで自分に障害があることで周囲の人々から「特別扱いをされたりするのは嫌」で中学校までは地元の普通校に通っていましたが、健常児に混じって、同じように教科の勉強や宿題・学校行事をこなしてきました。高校は、やっぱり「自分なりに普通の高校生並の勉強や学校生活を送ってみたい」と思い、地元で養護学校があるのに関わらずに、一般の高等学校並みの勉強ができる全寮制の養護学校へ進学しました。高校卒業後、地元に戻り、約3年あまり町の社会福祉協議会が運営している障害者デイサービスに通っていました。ここでは毎日、牛乳パックでの葉書き作りやボール遊びなどの軽作業や余暇活動がほとんどだったので、中学や高校の頃と同級生が大学に進学したり、一般企業等に就職して働いているのに、「私は、このままでいいのだろうか」と思い悩みました。2年間思い悩んだ末、通信制の大学に行きながら、親亡き後の生活のために、親が顕在のうちからヘルパーなどの他人の介助を受けながら自立した生活をおこそうと思ひ、一人暮らしをすることを決心しました。

大学では「社会福祉」を学び、学校の合間に障害者の競泳サークルに入って、他の軽度な障害者に混じってほぼ毎日のように練習して学生時代は過ごしました。

こうして、大学で福祉を学んだり、競泳サークルで様々な障害者の水泳大会に出場する中で、私と同じような重度の脳性まひの障害をもつ大学教授・重度の障害をもつ先輩方が、充実した学生生活や自立生活を送っておられたり、近い将来社会福祉士やピアカウンセラーの資格を取得して福祉職を目指している姿や他の軽度の障害者のスイマーに負けないほどの力強いファームで泳ぐ重度の障害をもつスイマー、本当に多くの障害をもつ先輩や友人、水泳仲間に出会うことができました。

私もこんな先輩方や水泳仲間のように、重度の障害があっても、一人の社会人として一人でも多くの方に認められるように、社会福祉士などの価値ある資格を取ったり、身体障害者の全日本選手権などの色んな水泳大会に出場したり、そして何よりも「私には、障害があるから」と言って、決して自分自身に甘えることなく、重度の障害をもったありのままの姿で、一人の社会人として、生きることができたらと常に思ひ、生きております。

② パソコン工房設立に対する意思

今年の春ごろ、広瀬代表理事から「再来年の4月の開所を目標にBさんと3人で地域活動支援センターパソコン工房を立ち上げて、Aさん、そこの所長になってみないか」と言って頂いたときは、「こんな私に、地域活動支援センターの責任者として務まるのか」とかなり戸惑いがありましたが、私も一昨年の春に「社会福祉士」の国家資格を取得し、それ以来、「重度の障害を持つ当事者の福祉士ならではのピア的な視点に立った障害者福祉の仕事ができれば」と思っていましたので、「地域活動支援センター パソコン工房の所長」なら、再来年の開所までに、広瀬代表理事のもとでしっかりパソコン技術や地域活動支援センターの運営における様々な知識等を勉強させて頂いたら、今日まで自分自身でも培ってきたパソコンに関する知識や社会福祉の知識を生かしてできるのではないかと思います、パソコン工房を広瀬代表理事と一緒に立ち上げることを決心させていただきました。

また、「パソコン」という道具は、今日のIT社会の中で、特に障害者が一般企業等に就職する際、必要不可欠な道具になりつつありますし、私みたいに重度障害者になればなるほど、例えば高度なホーム

ページ作成技術やエクセルやアクセスなどを使ったデータベースなどの作成技術などを取得すると社会参加はもちろん、在宅就労や一般就労の可能性を広げてくれるものだと思っています。

私も高校生の頃より「重度の障害があっても、一人の社会人として当たり前、働いてみたい」と思い、今まで 20 社ほどの一般企業や社会福祉関係の事業所の採用試験や面接を受けてきましたが、「重度の障害があるから」「言語障害があるから電話の応対が難しそうだから」と言われて断われたり、中には見た目だけで判断されて、面接もして頂けなく門前払いをされた苦い経験をしたときもありました。

だからこそ、ぜひ広瀬代表理事をはじめ、皆様のお力添えを頂き、「パソコン工房」を立ち上げて、障害の種別や程度に関わらずに、「障害を背負いながらも、一人の社会人として働いたり、社会参加をしていきたい」と思っている仲間たちの職業自立や社会自立をピア的または対等な立場にたって応援をしていけたらと思っています。

### ③ Bさんについて

当センターの事務のしていますBさんも私同様、「パソコン工房」の立ち上げ準備から関わり、設立時にも事務のスタッフとして、一緒にさせてもらう予定にしていますが、彼女は、今脳性マヒの後遺症がひどく、家で療養しながら、リハビリをしている最中ですので、本日は席を外しておりますが、彼女は私と同様、「障害があっても、一般の方並みに働きたい」という思いが強く、「私、事務の仕事に就きたいねん」と言っていて「尼崎障害者情報ネットワーク」で事務職に必要なワードやエクセルの技術を身につけたり、去年にはまだパソコンを始めて間のないのに、総務省の 30 時間のパソコン初心者にはかなり難しいホームページ作成ソフトを使った「ホームページ作成講座」に参加して慣れない手つきでも必死で確実に自分のものにしようとする努力家でガンバリ屋です。

また彼女は、責任感が強く、先月、脳性マヒの後遺症で倒れる寸前まで、パソコン工房の設立準備やセンターの事務の仕事を頑張ってやっていました。

それに、今回「脳性マヒの後遺症」で彼女自身が苦しんだ分、きっと他の重度の障害者の気持ちに寄り添えたり、人の辛さや人の不甲斐無さにより添えって、共に語ることができるいい地域活動支援センターのスタッフとなって復活してくれると思っています。

私は、「障害があっても、一人の社会人として普通に働きたい」という同じ意識を持った彼女と二人三脚で再来年の 4 月の開所を目標にパソコン工房の設立準備をし、尼崎市民の方々に「尼崎障害者センターが運営している地域活動支援センターは、いいセンター」だと評価されるように運営していきたいと考えています。

2009.11.13